



Subaru

男声合唱団

ニュースNo.642

18. 2. 5

新曲レッスン続く！ “自己レッスン” に力を入れて！楽しい合唱練習を！！

2月2日



□ 2月2日(金) 18:00～
20:30 昂定例レッスンが開催
されました。

佃さんの体操と千秋さんのヴォ
イストレーニングのあと、本並先
生の指揮で、「みんなのうた」(原
田芳雄：作詞・作曲、池辺晋一郎
編曲)、新曲の「蹄鉄屋の歌」
(作詞：小熊秀雄、作曲：林 光)
そして名曲の男声4部合唱「死ん
だ男の残したものは」(作詞：谷川
俊太郎、作曲：武満徹)をレッスン

しました。 □休憩・連絡報告をはさんで、引き続き、谷川俊太郎作詞の「風のマーチ」(石若雅弥：作曲)と「夕焼け」(男声4部、作詞：高田敏子、作曲：信長貴富)、「このみち」(作詞：金子みすゞ、作曲：石若雅弥)を、最後に、「2018 がんばろおおさかフェスタ」で歌う「こころひとつに」を歌いました。ピアノ伴奏は森二三さん。参加者は全34名でした。

□指揮者から一言

(1) 「みんなのうた」は『6人の作曲者によるニューアレンジ曲集「みんなのうた」』の第1曲目で、今よく歌われている。レッスンのときに久しぶりに歌って「楽譜を追っている」ようでは困る！合唱が進まない！みんなで出しあった「前回のコンサートの反省」も踏まえて、もう少し各自の「自己レッスン」をしっかりとって欲しい。そのうえでレッスンに臨んでほしい。「夕焼け」「風のマーチ」も自己レッスンを！指揮者からの要望です。

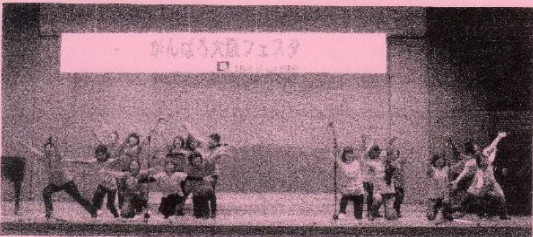
(2) 「蹄鉄屋の歌」は原譜は混声4部の曲。出版されている楽譜は現在入手不可。山本宏司さんが手書き楽譜を起こして、Finaleでデータとして浄書し、パートを男声用にしてくれました。伊藤さんが原譜との比較照合作業をし、原譜を変更せずにそのまま男声4部の楽譜が出来上がりました。重厚で複雑なハーモニー、詩の内容も面白い。昂のレパートリーに入れましょう！

(3) 「死んだ男の残したものは」「このみち」は何度歌ってもいい曲。昂の十八番にして歌っていきましょう！

2018年“がんばろ”大阪フェスタ

“力を寄せ合い”歌って踊って元気にスタート！！
2/12(月・祝)守口文化センターエナジーホール

開場 13:00 開演 13:30 終演 16:00 参加協力券 800円

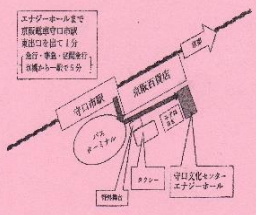


プログラム

- 獅子舞と旗笛
- 女性のうたごえ
- 北摂地域のうたごえ
- シルバーのうたごえ
- 南摂地域のうたごえ
- 堺東北地域のうたごえ
- うたごえパートⅠ・東部地域のうたごえ
- ゲスト「ハンドベル“ブーケ”」音楽演奏
- 沖積平野ツアー報告と新作曲発表
- 北摂地域のうたごえ
- 北河内地域のうたごえ
- 青年と保育のうたごえ
- 関西アオクラブ
- うたごえパートⅡ・河内・阪南地域のうたごえ
- 日本のうたごえ石川・北陸祭典入賞団体の演奏
- お楽しみの大抽選会
- 70周年大振のうたごえ祭典の“呼びかけ”
- ラスト全員大合唱

主催 大阪のうたごえ協議会

連絡先: 大うた協事務局 TEL06-6969-3373



とよの合唱団

春のコンサート

友よ、君の歌を！

とよの合唱団は2000年に創立、何よりも平和な世界を願い、人々の絆を大切にしたいとの思いで歌ってきました。ぜひご来場ください。

2018年 **3月7日(水)**
1:30開場 2:00開演

指揮 本並美徳
ピアノ 瀬崎紀子

豊中市立
文化芸術センター
小ホール (旧豊中市民会館)

1,500円(全席自由)
高校生以下・障がい者&介護者: 1,000円
アクセス



阪急宝塚線「曾根」駅より東へ約300m 駐車場有料 (阪急梅田-曾根駅 普通電車にて13分)

友よ、君の歌を！
汽車ぼっば
ロマンチストの脈
さびしいカシの木
生きる
沖縄よせて
この空に風が光る
一地雷ではなく花を
雲の上の青い空
けれども大地は
ねがい
春の日花とかがゆく
ぼらを掻きよう
ら クラッチャ
カリンカ、他7曲
未来へ
越中おわら

※プログラムは都合により変更することがあります。

＜団員募集＞
わたしたちと一緒に混声合唱の楽しみを味わってみませんか、
いつでもいいので大丈夫、ぜひ見学にお越しください。
練習日: 月3回、水曜日2回(原則として第1・3水曜) & 第4土曜日、夜6~9時。
場 所: 阪急曾根駅徒歩5分 豊中市中央公民館 多目的ホール
連絡先: 伊藤 (012-749-426) 奥野 (090-9097-4411)

□「2018年がんばろ大阪フェスタ」2月12日(月・祝)

13:00開場、13:30開演 守口文化センター・エナジーホール

集合: 10:00 舞台リハーサル: 10:10 (「こころひとつに」)

練習: 10:40 本番: 13:43 (京阪守口市駅すぐ)

【参考資料】『蹄鉄屋の歌』

昭和のはじめ、プロレタリア詩派の代表者として知られた小熊秀雄の”泣くな、驚くな、わが馬よ、私は蹄鉄屋”に始まる長編詩に、林 光が作曲したのは、彼28歳という若い時であった。

”私はお前の爪に、まっ赤に焼けた鉄の靴をはかせよう”という仕事から、馬と人間(少年、青年)への深い愛情をもって、生きる苦しみに打ち勝つための詩人の励ましの言葉は、若い作曲者の心を揺さぶり、このすばらしい作品として残されたのであろう。
(櫻井 武雄)

小熊 秀雄(おぐま・ひでお)

明治34年(1901年)、北海道に生れる。四歳のとき、実母に死別。
大正5年、樺太にて高等小学校を卒業後、ほとんど独立した生活を営み、漁師の手伝い、炭焼、百姓仕事、昆布採集、伐木人夫などの仕事をした。
大正11年、旭川新聞の記者となる。昭和3年、妻子を伴って、上京。業界紙の編集などをやりながら詩を書き、「民謡詩人」などに発表した。この頃、遠地輝武、伊賀上茂と知り合う。昭和6年、プロレタリア詩人会に参加、ナップに加わる。同8年、新井徹、遠地らと「詩精神」を発刊。プーシキン、ネクラソフ、ゴーリキ、マ

ヤコフスキー等を熟読し、前掲誌のほか、「詩人」「現実」を拠点に盛んに詩作し、デッサンも描き始めた。昭和10年、風刺雑誌「太鼓」の同人となる。この頃より、風刺詩興隆の波にのり、ようやく詩壇に影響を持つに至った。昭和15年11月、持病の喘息が高じて病没した。

詩集には、「飛ぶ櫓」「小熊秀雄詩集」(ともに昭和10年)などがある。

(角川文庫「現代詩人全集」第6巻・伊藤信吉/解説から)

定『小熊秀雄とその時代』せらび書房 2600円+8% 田中益三・河合修 編

内容 写真・絵などビジュアル資料を多数掲載。新発見の詩・エッセイを収録。詩とその生きた時代を全体的・本格的に捉えた初めての本。『行為こそ希望の代名詞だ』。生きがたい世を生きやすく、面白いこともない世を面白く、それが詩人小熊のライフスタイル。詩人は池袋モンパルナスの一角で、剣呑な「昭和」の時代をペンと絵で切り取り、民衆層のことごとくの声・姿を開示する、その代理人をかってでた。その眼差しは日本のみでなく、『樺太』、『朝鮮』、中国からロシアまで、植民地と圧制の国家を総体として捉える脱国境の複眼をそなえ、それは今も輝きを失わない。小熊秀雄の詩抄と新発見の資料を付し、比類のないその世界を、新たな角度で照射する。

蹄鉄屋の歌 小熊秀雄

泣くな、
驚ろくな、
わが馬よ。
私は蹄鉄屋。
私はお前の蹄〔ひづめ〕から
生々しい煙をたてる、
私の仕事は残酷だらうか、
若い馬よ。
少年よ、
私はお前の爪に
真赤にやけた鉄の靴をはかせよう。
そしてわたしは働き歌をうたひながら、
——辛抱しておくれ、
すぐその鉄は冷えて
お前の足のものになるだらう、
お前の爪の鎧になるだらう、
お前はもうどんな茨の上でも
石ころ路でも
どんとんと駆け回れるだらうと——、
私はお前を慰めながら
トッテンカンと蹄鉄うち。
あゝ、わが馬よ、

友達よ、
私の歌をよつく耳傾けてきいてくれ。
私の歌はぞんざいだらう、
私の歌は甘くないだらう、
お前の苦痛に答へるために、
私の歌は
苦しみの歌だ。
焼けた蹄鉄を
お前の生きた爪に
当てがった瞬間の煙のやうにも、
私の歌は
灰色に立ちあがる歌だ。
強くなつてくれよ、
私の友よ、
青年よ、
私の赤い炎を
君の四つ足は受取れ、
そして君は、けはしい岩山を
その強い足をもつて砕いてのぼれ、
トッテンカンの蹄鉄うち、
うたれるもの、うつもの、
お前と私とは兄弟だ、
共に同じ現実の苦しみにある。